

文化財保存科学研究部会

文学部

- 狩野 啓子 (日本近代文学)
池口 守 (西洋史学)
大庭 卓也 (日本古典文学)
神本 秀爾 (文化人類学)
田中 優子 (イギリス文学)
堂前 亮平 (人文地理学)
原口 雅浩 (知覚心理学)
宮原 信孝 (国際交流論)
矢毛 達之 (日本語学)
矢野 英子 (外国語教育)

経済学部

- 浅見 良露 (人文地理学)
伊佐 淳 (非営利組織論)
大矢野 栄次 (経済政策)
畠中 昌教 (観光地理学)
葉山アツコ (アジア地域環境)

商学部

- 谷口 豊 (比較経営論)

医学部

- 大久保 博 (超伝導)
大沼 雅明 (生物学)
上宮 健吉 (昆虫学：特別研究員)
桑野 剛一 (感染医学)

研究協力者

- 三輪 嘉六 (元九州国立博物館長)
中野 三敏 (九州大学名誉教授)
松枝 哲哉 (久留米耕作家)
松枝小夜子 (久留米耕作家)
溝田 俊和 (手漉き和紙製作者)
溝田 直美 (手漉き和紙製作者)
松延 新治 (桶職人)
近藤 早苗 (クララ生産者)

文化財保存科学研究部会の特色

- 文化財保存を科学的に研究することと筑後地域の伝統工芸を結びつけた。
- 開設時の2007年から、医学部教員も部会員に登録して共同研究を進めており、文理融合の研究体制

研究活動のテーマ

- クララ研究
- 八女手漉き和紙研究
- 久留米緋・藍染め研究
- クールジャパンの活動
- 九州国立博物館との連携

文化財保存科学研究部会 (2007—2016)

『西日本文化』(482) 2017年4月刊行
文化財保存科学研究部会十年の取り組み(一)
カビと虫とのたたかい

『西日本文化』(〇〇)
文化財保存科学研究部会十年の取り組み(二)
〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 〇〇

Web サイトの構築
kurumebunkazai.jp

■クララ・藍菌研究

文化財保存修復学会第30回記念大会 (2008年5月17日)

保存用記録紙として防虫効果の高いクララ和紙 科学薬剤を用いない防虫保存用品の開発

文化的な価値のある紙資料に大きな被害をもたらすものに昆虫類がある。文化財保存に燻蒸殺虫処理が難しくなった現在、それに代わる方法が求められている。そこで、毒性のある化学薬剤を使用する燻蒸等の方法ではなく、**害虫が忌避する成分を保有する植物を利用して、保存用品を製作**することを試みてきた。

最初の発想は、紙を護る紙の開発である。古人は、ある種の植物を用いて害虫から身を護っていた。

試作した**クララ紙**や**藍染布**の顕著な防虫効果を確認することによって、単なる復古趣味ではない将来への展望を確信するに至った。



はじめに

文化的な価値のある紙資料に大きな被害をもたらすものに昆虫類がある。文化財保存に燻蒸殺虫処理が難しくなった現在、それに代わる方法が求められている。そこで、毒性のある化学薬剤を使用する燻蒸等の方法ではなく、害虫が忌避する成分を保有する植物を利用して、保存用品を製作することを試みてきた。

最初の発想は、紙を護る紙の開発である。古人は、ある種の植物を用いて害虫から身を護っていた。試作したクララ紙や藍染布の顕著な防虫効果を確認することによって、単なる復古趣味ではない将来への展望を確信するに至った。

I 伝承(情報)の収集

文献とインターネットの情報等を収集して検討した。また、練方志功に板面紙を提供してこられた八女市在住の高山栄一氏をはじめとして、複数の専門家へのインタビューにより、貴重な情報を得ることができた。

II 防虫保存用品の試作

1. 保存用和紙

八女伝統工芸館の中原稔弘氏に依頼し、基本紙料のコウゾにヘンブ、キハダ、ゲットウ、クララ、ウゴン、ローズマリー等を置き込んだ和紙を製作した。最後に、最も防虫効果の期待できる植物として苦参(クララ)に着目し、クララ和紙の製作も依頼した。



古代の和紙の復元を目指すものではなく、あくまで防虫効果を有する和紙の製作を目的として、複数の製法により製作した。

2. 保存布

久留米市在住の藍染織の専門家である松枝哲哉氏に依頼し、藍染めとウゴン染めの保存布を製作した。

3. 保存箱

八女市在住の松延新治氏に依頼し、桐と桐製の保存箱を製作した。



III 試作和紙の防虫効果実験

普遍的な紙料としてのコウゾは実験的には防虫機能の低い和紙である。試作した和紙や古書に対して、シバンムシ類を実験に用いて防虫効果を比較した。

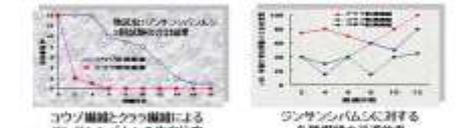
1. シバンムシの収集

古書収集の専門家のご理解を得て、2006年6月に数千頭もの虫の捕獲に成功し、実験の第一歩を踏み出した。その後は、査殖にも成功した。



2. 生態観察と忌避実験

発表者の1人で、昆虫学の専門である上宮健吉が、シバンムシの生態観察と各種和紙に対する忌避・放散実験を行った結果(5月18日(日)14:00~14:15発表 セッションVII 保存用記録紙として防虫効果の高いクララ和紙について)参照)。害虫の忌避効果は和紙に置き込む植物によって大きな差があり、防虫効果の高い和紙は文化資料の積極的な保存に供することができるという結論に達した。



IV さらなる展開

1. 藍菌の検証にむけて

藍は古来より、防虫、防菌、毒蛇から身を守るといった様々な効能が伝えられている。藍の染織家は、「藍は生きている」ことを経験的に知っているが、根本の働きは藍菌によるものであるという。その藍菌を、科学的に検証するための第一歩として、「藍の発菌菌の培養とその形状」を発表した(桑野・松枝・狩野・松枝・2008 久留米大学比較文化研究所文化財保存科学研部会・九州ミュージアムIPM研究会 第2回合同研究会)。



2. 染色材料としてのクララ

古くは「延喜式」に、染色材料としてのクララの記述が見られる。2007年7月に上宮健吉が提供したクララの枝と葉を用いて、松枝哲哉氏は木綿糸を黄色に染めることができた。また、クララ染めの後に藍染めに施した絹布は、鮮やかな緑色に染まった。

クララで染めた黄色の糸を機織が藍の中に織り込んだ作品「星合い」は、クララ和紙を横糸にして藍糸に織り込んだ紙布の作品「涼風」とともに、「松枝哲哉 絨履 筑後の風を織る」(2008年4月11日-19日 和光並木館)に展示された。

謝辞 実験の遂行にあたり、九州大学名誉教授 中野三郎先生、久留米大学医学部長 赤澤清先生、八女伝統工芸館 中原稔弘氏、国指定重要無形文化財久留米市技術保持者 松枝哲哉氏、伝統工芸 松延新治氏、久留米大学医学部 桑野剛一先生、久留米大学工学部生物工学教室 小田内り子先生には多大のご指導とご協力を頂きました。ここに記して深く感謝の意を表します。

愛称

藍くららプロジェクト

メーリング・リスト

10aikurara@ml.kurume-u.ac.jp

■八女手漉き和紙研究

八女和紙記録ビデオ上映会



久留米大学の文化財保存科学研究部会は、平成20年度から23年度にわたって八女和紙の調査と撮影を継続してきました。八女手漉き和紙製作者の協力により、八女和紙に関する2本の作品が完成しました。

匠の記録 極薄和紙を漉く

日時／平成24年4月28日(土)14:00-16:00

会場／八女伝統工芸館 1階講義室

主催／久留米大学比較文化研究所 文化財保存科学研究部会

お問い合わせ／久留米大学文学部 杉野香子 E-Mail: KanoJeiko@kurume-u.ac.jp

平成20年度から23年度にわたって八女和紙の調査と撮影を継続。八女手漉き和紙製作者の協力により、八女和紙に関する2本の作品が完成。

『匠の記録』

(八女手漉き和紙の長老の記録ビデオ)

『極薄和紙を漉く』

(八女の溝田俊和さんの挑戦)



西日本文化 (481)

『世界が求める和紙』づくりを研鑽 —手漉き和紙・溝田俊和さん—

■筑後優品

筑後地域の伝統文化を担う方々と協力して、諸方面の共同研究を推進。筑後地域のすぐれた伝統工芸品等を、「筑後優品」の名で広く社会に紹介

久留米大学比較文化研究所

文化財保存科学研究部会 展示会のご案内

「筑後優品」誕生物語 序章

- I 前史
- II 「文化財保存科学研究部会」の取り組み
- III ささまざまな共同研究
- IV 「筑後優品」の誕生

期間中、適宜、学習会や
ギャラリートークを行います。

筑後優品



開催場所
くろめあ六ツ門6F 高等教育エッセイシアム
久留米 サテライト・キャンパス 展示室
〒830-0031 福岡県久留米市六ツ門町3-11
最寄りバス停「六ツ門」



開催期間
2010年8月6日(金)~8月12日(木)
午前10時~午後5時
*都合により変更することがあります。

主催:久留米大学比較文化研究所文化財保存科学研究部会
協賛:高等教育エッセイシアム久留米・久留米大学非公認サークル 筑後伝統文化愛好会(oc)

お問い合わせ

久留米大学文学部 狩野啓子 E-Mail: kano.keiko@kurume-u.ac.jp



<http://www.kurume-u.ac.jp/soshiki/3/chikugo.html>

産学連携プロジェクト

久留米大学 文学部産学連携事業プロジェクト
Dhikugonoteshi.go.jp

「筑後の手仕事ー伝統工芸ー」

久留米大学の学生としての4年間、もっと知識のことを知りたいと思いませんか。例えば、海外へお出かけした時、自分の住んでいる町の紹介をする機会が多いです。久留米大学が設置する産学連携には様々な伝統工芸品があります。手仕事の人達から、伝統工芸品の歴史や歴史、その作り方を学び、作品のデザインや印刷について実を学ぼう。地域の産業活性化に貢献しましょう！

参加者募集!!

【2015年度の前定】
八女和紙とクララ (5月1日)
久留米餅と藍 (7月1日)
藍胎染器と漆 (10月1日)
星野焼きと土 (11月1日)
和紙燻とハゼの木 (12月1日)

- ◆ それぞれの伝統工芸の歴史や制作工程を学びます。工芸作業見学を始め、アイデアやデザインを出しながら、製品化の企画にも加わります。また、製品の販売や紹介にも参加し、地域産業の活性化を目指します。手仕事の達人たち、地域の方々とお交流する良い機会です。
- ◆ すべての活動に参加しなくてもかまいません。文学部主体ですが他学部生も参加できます。
- ◆ 参加希望者は教務課に設置の「筑後の手仕事ー伝統工芸ー」ポストまで

産学連携とは、一時的に大学の研究者から技術の指導を受けたり、一時的に産業界の課題を解決したり、研究者の知的財産の活用を受け、新製品・新技術の開発をしたりすること。

もっと知りたい
八女手漉き和紙

九州で最も古い歴史を持ち、県の無形文化財に指定された八女手漉き和紙。

普段使っている紙と和紙の違いってなんだらう？
どのように作られているのだらう？

八女手漉き和紙について学んでみませんか。

申込方法
狩野啓子 (kano_keiko@kurume-u.ac.jp)
宛てに

1. 氏名
2. 学籍番号
3. メールアドレス
4. 電話番号

を書いて送ってください。

2016年6月19日 締切



久留米大学文学部産学連携事業「平成27年度和紙プロジェクト」
八女和紙を生かしたモノ作り②
「和本づくりを学ぶ」

和紙製作研習会

日時：2月23日(月) 14:30～終了後交流会
場所：八女伝統工芸館

各自で現地集合

- 【JR九州(鹿児島本線)利用】
JR久留米駅より西鉄バスで八女行き—50分
下車/大停下車—徒歩 15分
- 【西鉄大牟田線(福岡～大牟田)利用】
西鉄久留米駅より西鉄バスで八女行き—40分
下車/大停下車—徒歩 15分

交通費支給、交流会は文学部学生は無料
詳しくは下記連絡先でお尋ね下さい。

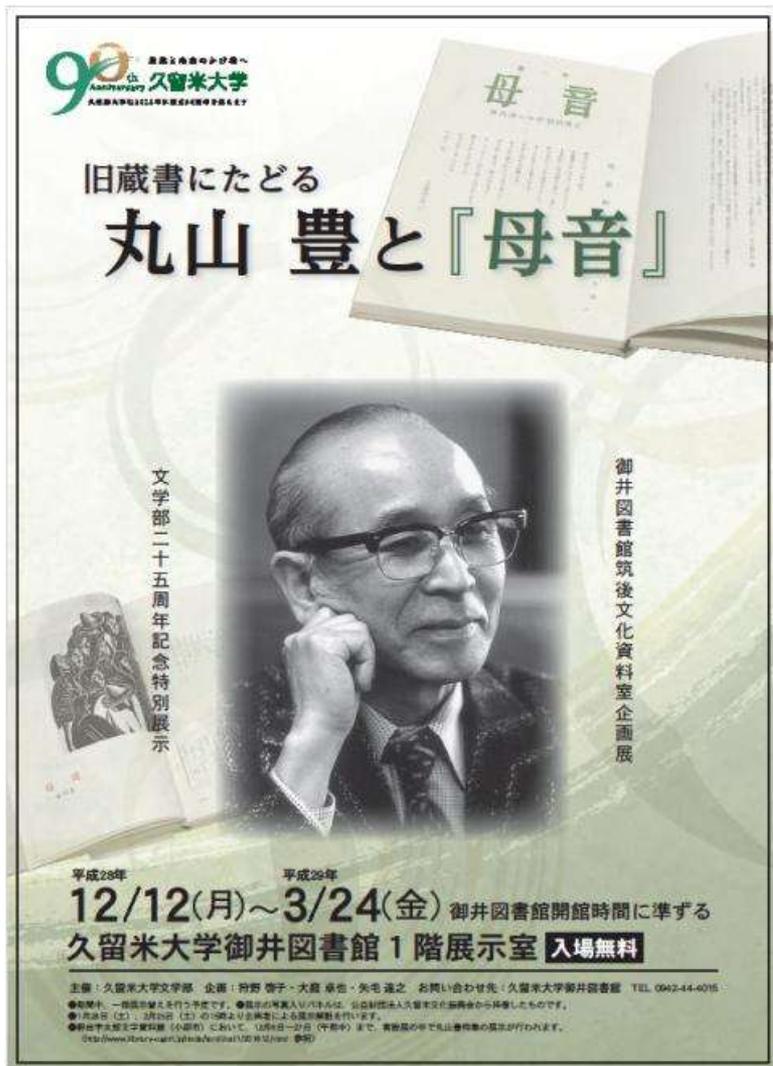
久留米大学文学部学生・教員対象。(それ以外の方はお問い合わせください。) 説明会を願いますので、ぜひ参加して下さい。説明会には出席しなくても、当日参加できそうなお人も連絡をして下さい。

説明会：2月16日(月) 10:30～11:30
場 所：300号館3階 産学連携室

連絡先
狩野 啓子 kano_keiko@kurume-u.ac.jp
美野 啓子 yano_keiko@kurume-u.ac.jp



文学部25周年記念特別展示



90 創立90周年記念特別展示
久留米大学
久留米大学文学部25周年記念特別展示

旧蔵書にたどる
丸山 豊と『母音』

文学部二十五周年記念特別展示

御井図書館 筑後文化資料室 企画展

平成28年 平成29年
12/12(月)~3/24(金) 御井図書館開館時間に準ずる
久留米大学御井図書館 1階展示室 **入場無料**

主催：久留米大学文学部 企画：狩野 啓子・大庭 卓也・矢宅 達之 お問い合わせ先：久留米大学御井図書館 TEL 0942-44-4015
●複製料、一冊限り貸し出す予定です。●展示の見入りのほか、公益財団法人久留米文化財団会から拝借したものです。
●平成29年(土)・29日(日)の2日および休館日による展示休館を行います。
●御井大学文学部資料室(小冊子)において、12月4日~21日(予約)まで、複製費が半額の展示が行われます。
URL: <http://www.lib.uv.ac.jp/ku/ku2017/03/24.html> (参照)

展示に際して、**八女手漉き和紙を使ったパーティション**を使用しました。

文学部では産学連携事業の1つとして、3年前より八女和紙との連携に取り組んでおります。

その活動の一環として、溝田俊和氏指導の下に和紙製作者と学生が共同制作したものです。

久留米大学文学部産学連携プロジェクト

はじめてのくるめかすり'28

—私をあの笑顔と隣で—

あなたは筑後地方の誇る「久留米餅（くるめかすり）」についてどのくらい知っていますか？まず、久留米餅を着て久留米の街を歩いてみましょう。そして久留米餅の歴史や未来について考えてみましょう。あなたが出会った初めての「くるめかすり」を伝えていきましょう。

文学部生を24名募集!

昨年度の経験者・・・8名
(中心になって企画、運営にも関わります。)
今年のはじめての人・・・16名

参加希望者対象に
説明会を開催します!
日時:4月28日(木)12:20から
場所:167
申し込み方法を会場で説明します。

田中優子 y.tanaka@kurume-u.ac.jp
徳田智代 tokuda_tomoyo@kurume-u.ac.jp
矢野英子 yano_hideko@kurume-u.ac.jp



はじめてのくるめかすり
集合写真



餅を使った試作品



久留米餅の製作現場(藍生庵)見学

■クールジャパンの活動

平成25年度 経済産業省『クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業（プロデューサー人材等派遣事業）』日本の伝統技術で文化財保存修復用品を創る

重要無形文化財に認定され、高い技術を維持し芸術性の高い久留米紺と、歴史的な作品などの文化財の修復にも供される八女の手漉き和紙について、これまでの輸出により培われた欧米とのネットワークを活用し、日本の優れた伝統工芸品として国外に**販路**を展開する。

久留米大学文学部公開講演会
「筑後の藍と和紙」(全3回)
第1回「藍をめぐって」
日時：12月9日(月) 18:20開場
場所：51A教室
通訳付き(参加費無料)
総合司会：森野剛一(久留米大学文学部教授)
18:30-19:30
ジェニー・バルフォア・ポール Jenny Balfour-Paul
エタペグ大学芸術科准教授、世界の産染織についての調査研究の第一人者。2011年、「indigo: Egyptian Mummies to Blue Jeans」(The British Museum Press)を出版。
「世界的な視野で藍を見る ―エジプトのミイラからブルー・ジーンズまで―
Indigo: A global story, past and present
19:30-20:30
フィリップ・ジョン Philip John
レディング大学名誉教授。2001年〜2004年 EUの巨大プロジェクト「SPINDIGO」のコーディネーター。
「真正天然藍染めとは ―SPINDIGOの結核者として―」
The Scientific Basis of Traditional Indigo Extraction and Dyeing
久留米大学「藍のまやかし」総括管理官

久留米大学文学部公開講演会
「筑後の藍と和紙」(全3回)
第2回「筑後の和紙を世界に発信する」
日時：1月13日(月) 13:00開場
場所：51A教室(久留米大学御井学舎)
通訳付き(参加費無料)
13:30-14:00
「和紙を西洋に紹介する」
―『和紙の歴史』の著者 横井コニー
コニー・ギンズバード (Konika GINSBERG)
和紙研究を行うアーティスト。天然染色による作品も制作。和紙の歴史を研究している。
14:00-15:00
「八女和紙の特長」
―各地の和紙を比較して―
森野 剛 (Now Kenjiro)
「皇田市街の染織文化と和紙」
日本の和紙の歴史と和紙の文化
「手漉きの技術と和紙」

久留米大学文学部公開講演会
「筑後の藍と和紙」(全3回)
第3回「筑後の伝統工芸を世界に広めるために」
日時：2月1日(土) 13:00-15:30
場所：石橋美術館本館1階ギャラリー
通訳付き(参加費無料)
和紙に魅せられて ヨルク・ゲスナー
伝統工芸を世界に発信する 中野 重治
ロンドンで日欧交流をコーディネートする 山本 勉
ヨルク・ゲスナー
Joerg Gesner
中野 重治
Shigenori NAKANO
山本 勉
Takanori YAMAMOTO
JAPAN-UK代表
和紙の専門家
コーディネーター
ファンタジック

主催：久留米大学文学部(連絡先：0942-43-4411 内線)
共催：久留米大学文学部研習会
後援：NPO法人 スローフード協会筑後支部・(財)次大エンタープライズ
運営：「日本の伝統技術で文化財保存修復用品を創る」プロジェクトチーム
[総合企画書『クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業(プロデューサー人材等派遣事業)』]

主催：久留米大学文学部(連絡先：0942-43-4411 内線)
共催：久留米大学文学部研習会
後援：NPO法人 スローフード協会筑後支部・(財)次大エンタープライズ
運営：「日本の伝統技術で文化財保存修復用品を創る」プロジェクトチーム
[総合企画書『クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業(プロデューサー人材等派遣事業)』]

主催：久留米大学文学部(連絡先：0942-43-4411 内線)
共催：久留米大学文学部研習会
後援：NPO法人 スローフード協会筑後支部・(財)次大エンタープライズ
運営：「日本の伝統技術で文化財保存修復用品を創る」プロジェクトチーム
[総合企画書『クールジャパンの芽の発掘・連携促進事業(プロデューサー人材等派遣事業)』]

■ 専門家の招聘（筑後の藍と和紙全3回）

■ 平成26年2月：ローマ・ミラノの視察等の実態調査

- ・和紙の正確な情報や和紙の特徴が修復専門家に正確に伝達されていない
- ・修復師からの和紙のニーズを高いことを把握
- ・八女和紙の見本帳を作成する等の取組

■ 平成28年3月：文化財保存科学研究のためのイタリア研修団

ミラノ：平成27年9月に久留米大学と学術交流協定を締結したミラノ・ビコッカ大学のステファニア・バンディーニ教授の設定により、和紙従来スタイルに関するミーティング（建築家・文具デザイナー・帽子デザイナー・和物を取り扱うショップ経営者、写真家等々、和紙に強い関心を持つ方々が参加、和紙を用いたデザイン等の複数の共同開発の申し出

ローマ：バチカンの図書館・古文書部・民俗学博物館（5月開館予定）の保存修復専門家と面会して、修復用和紙についての情報共有と先方の要請を聴取

- ・**和紙輸出に関心のある国内の業者**も参加して、ヨーロッパの美術館に和紙を販売しているローマの業者と面談を行い、**輸出業務を開始する状況把握の第一歩**
- ・日本大使館訪問：梅本和義駐イタリア特命全権大使に会い、久留米大学が取り組んでいるプロジェクトの内容を説明

上村哲弘(上村紙株式会社 常務取締役)

後郷吉彦(ふくおかIST)

(公財)福岡県産業・科学技術振興財団

地域連携コーディネーター

■九州国立博物館との連携

- 合同研究会
- 東アジア紙シンポジウム(第2・3・4回)に参加
- 総合的病害虫管理(IPM: Integrated Pest Management)活動に協力(研修の講師)
- 文化財と防災に協力
- 久留米大学公開講座に組み込んで, 市民向け啓発活動(2016年度まで)

久留米大学公開講座: 文化財を守る(2016年度)

災害から文化財をまもる	本田光子	(九州国立博物館 科学課長)
立花家史料館の文化財	植野かおり	(立花家史料館 館長)
河北家の児童文学関連資料	狩野啓子	(久留米大学文学部 教授)
東北大震災と文化財	安田容子	(東北大学災害科学国際研究所 特別教育研究教員)
筑後絵葉書コレクション	大庭卓也	(久留米大学文学部 准教授)

■2016年度の活動

- 「平成27年度製造基盤技術実態調査(我が国における和紙産業のブランド力強化に関する調査)報告書」三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社P51-52に、クールジャパンの事例紹介(2016年3月)
- ミラノ・ローマ研修・報告
- ロンドンで藍の研修
- 2016(平成28)年度久留米大学公開講座
13 筑後の伝統工芸 16 文化財を守る
- トルヴェルガータ大学で和紙に関するプレゼンテーション
- 文学部産学連携
はじめてのくるめ絣 八女和紙との連携

2016年度(平成28年度)久留米大学公開講座

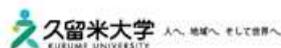
13: 筑後の伝統工芸

久留米緋と藍	鳥丸 貞恵	(久留米市文化財 専門委員)
久留米緋の新しい展望	古賀 円	(久留米緋未来研究室 コッポラート)
八女和紙の現状と展望 ～クールジャパンの活動を振り返る～	狩野啓子	(久留米大学文学部 教授)
八女和紙の輸出への取り組み	上村 哲弘	(上村紙株式会社常務取締役)

16: 文化財を守る

災害から文化財をまもる	本田光子	(九州国立博物館 科学課長)
立花家史料館の文化財	植野かおり	(立花家史料館 館長)
河北家の児童文学関連資料	狩野啓子	(久留米大学文学部 教授)
東北大震災と文化財	安田容子	(東北大学災害科学国際研究所 特別教育研究教員)
筑後絵葉書コレクション	大庭卓也	(久留米大学文学部 准教授)

2012年度



日時 2012.5.12[SAT]

場所 御井キャンパス
421教室

15:00-17:00

- 1 グリンシン調査に参加して
上宮健吉(久留米大学比較文化研究所特別研究員)
清田俊和(清田和紙代表)
狩野啓子(久留米大学文学部教授)
大沼雅明(久留米大学医学部准教授)
- 2 地球のイカト遺産グリンシンの現地を訪ねて
松枝小夜子(日本工芸会正会員・重要無形文化財
久留米新技術保持者会 会員)

久留米大学比較文化研究所文化財保存科学研究部会では、久留米研究の一環として、世界でも稀少な経緯織であるインドネシアのグリンシンの調査を行いました。2012年3月に実施した現地調査の報告会を開きます。グリンシン織の展示もいたしますので、ご関心がある方はどうぞご参加下さい。

お問い合わせ
久留米大学文学部 狩野啓子
E-Mail : kano_keiko@kurume-u.ac.jp

主催 久留米大学比較文化研究所・文化財保存科学研究部会

グリンシン調査報告会

2013年度

文化財保存科学研究部会研究会



2013
4/27 SAT
15:00 ~ 17:00

会場 久留米大学
御井キャンパス
500号館 51A教室

主催 久留米大学
比較文化研究所
文化財保存科学研究部会

報告事項

- ロンドン・ノリッジ研修をふりかえって
矢野英子 (外国語教育研究所)
- 英国の博物館で考えた文化経済雑感
上宮健吉 (特別研究員)
- 藍についての見聞
松枝哲哉 (研究協力者)
- INDIGOについて
大沼雅明 (医学部)
- 和紙についての見聞
清田俊和 (研究協力者)
- 研修の成果と今後の展望
狩野啓子 (文学部)

研究会の前に、14:00よりイギリスに持参したビデオ番組『匠の記録 ～八女手漉き和紙～』
『八女極薄和紙を漉く～清田俊和～』 藍 匂い立つ～久留米餅に生きる松枝家の人々～』の
上映を行います。ご覧になりたい方は早めにお越し下さい。
18:30 より 懇親会を行います(「上海夢飯店」会費3千円)。参加ご希望の方は、お知らせ下さい。
当日参加も可能です。

連絡先 久留米大学文学部国際文化学科 狩野 啓子
E-Mail : kano_keiko@kurume-u.ac.jp

2014年度

久留米大学文学部講演会

イタリアと日本 400年の「遠距離恋愛」



河野 郁子 (日本政府代表、東京
オリンピックパラリンピック組織
委員会理事)

1973年東京大学法学部卒業。
外務省入省。総合外交政策局長、
外務審議官、駐ロシア特命全權
大使、駐イタリア特命全權大使を
歴任。2014年退官の後、現職
に就任。

日 時：2015年3月15日 (日) 13:00 ~ 14:30
会 場：久留米大学御井キャンパス 82A教室
参加費：無料
後 援：久留米大学地域連携センター
西日本新聞社



問合せ先: E-mail: kano_keiko@kurume-u.ac.jp
Fax: 河野啓子宛 0942-43-4797 (教員用)



2015年度

久留米大学文学部慶学連携プロジェクト

はじめてのくるめかすり

— 私たちの伝統と継承 —

最終回「伝える」—わたしが着た久留米餅—
11月18日 (水) 18:30 ~ 20:00
御井本館2階 ラーニング commons A

先行写真展

11月11日 (水) ~ 11月16日 (水)
御井本館2階 ラーニング commons A
全5回の活動の様子を写真を展示します。



久留米のみなさまの温かいご協力を得て、「久留米餅 (くるめかすり)」を着て、久留米の街を歩いてみました。エピソードを、美しい手仕事の行箱を添えていただきました。私達が体験した「はじめてのくるめかすり」について、ぜひごことを久留米大学の皆さんに伝えたいと思います。ぜひ発表を聞きにいらして下さい。



連絡先: 徳田 智代 toouda_tomoyo@kurume-u.ac.jp
葉中 優子 y_nakanaka@kurume-u.ac.jp
矢野 美子 yano_miko@kurume-u.ac.jp